

# 高齢者のスマートフォンの関与と生活満足度の関連

○水野 一成・近藤 勢津子（NTTドコモ モバイル社会研究所），廣瀬 通孝（東京大学名誉教授）

キーワード：ライフスタイル，スマートフォン，生活満足度，高齢者

## 1. 研究背景及び目的

NTTドコモモバイル社会研究所の調査(2025年1月時点)においては、60代は94.1%、70代も85.3%、80代前半においても66.4%がスマートフォン（以下スマホ）を所有している[1]。スマホは日々の活動を支えるだけでなく、娯楽での利用など、生活の中で必要となる場面が多くなりつつある。本稿ではスマホの所有の関与の違いにより、高齢者の生活満足度に差が生じているかを明らかにすることである。

## 2. 調査概要

調査時期:2025年1月

対象:全国 60歳-84歳 調査方法:訪問留置調査

回答者数:1,300 (分析対象者はスマホ所有 1,096)

## 3. 調査結果

スマホの関与に関わる設問[2]は、計9問（そう思う～そう思わないの4件法）で実査を実施。その結果を基に、因子分析を行った。その結果は表1の通り、「ネガティブ」「実用」「魅力」の3因子を抽出した。

表1 スマホの関与 因子分析

	ネガティブ	実用	魅力
操作するときにストレスを感じる	0.80	-0.04	0.09
操作が難しいと感じる	0.77	-0.01	-0.08
上手く使えないため、劣等感を感じる	0.70	-0.02	0.24
電話・メールさえ出来れば他の機能は必要ない	0.35	-0.29	-0.15
毎月の費用が高いと感じる	0.32	0.11	0.08
常に身の回りにない困る	0.03	0.78	0.22
持っていることが便利と感じる	0.04	0.62	0.05
新製品が発売される情報は気になる	-0.06	0.22	0.60
持っていたり利用したりすると見栄えがする（カッコイイ）	0.18	0.05	0.45

表2 スマホの関与 クラスタ分析

クラスタ	魅力	実用	困難	低関心
使いにくさ	-0.06	-0.75	1.01	-0.31
因子得点				
実用	0.40	0.42	0.01	-1.22
魅力	0.82	-0.42	-0.18	-0.37
回答者数	305	291	299	201
構成比	28%	27%	27%	18%
属性				
男性比(平均48%)	51%	46%	42%	54%
平均年齢(70.6歳)	68.8	70.3	71.7	72.4

表3 スマホの関与クラスタと生活満足度関連

クラスタ	魅力	実用	困難	低関心
生活満足度	7.1	7.2	6.7	6.8
	点数	*困難	*困難	*魅力 *実用
スマホの利用時間	96.3	84.8	60.3	39.0
	1日の平均利用時間	***困難 ***低関心	**困難 ***低関心	***魅力 **実用 *低関心 *困難
非対面交流	5.7	5.6	5.3	4.9
	得点	**低関心	*低関心	**魅力 *実用

\*<0.05 \*\*<0.01 \*\*\*<0.001

3因子を基に、クラスタ分析を行った結果が表2である。4クラスタに分け、それぞれ因子得点の高低から「魅力」「実用」「困難」「低関心」とした。上記の順に平均年齢は低く、困難は女性、低関心は男性がやや多い。生活満足度は0点（とても不満）～10点（とても満足）で自己評価を行った項目を使う。上記のクラスタごとの得点は表3の通りである。「魅力」及び「実用」と「困難」の間に有意差があり、「魅力」及び「実用」が生活満足度が高かった。

## 4. 考察

「スマホの関与」と「スマホの利用時間」にも差が確認でき、さらに「スマホの関与」と「非対面交流（別居・友人・近隣と通話やメール・LINEで交流）」との間にも差が生じていた（表3）。このことから、スマホの関与はスマホの利用とも関連し、その利用はコミュニケーションの差とも関連している。そういったことなどが関係し、本稿で明らかになった「スマホの関与」と「生活満足度」に関連が見られたのではないかと。このことは、シニア世代の生活にとって、スマホは生活の中に浸透し、QOLにも影響を与えている可能性がある。

## 参考情報

[1] NTTドコモモバイル社会研究所:シニアのスマホ所有 (<https://www.mobaken.jp/project/seniors/seniors20250324.html>)(2025)

[2] 中川秀和(1994)「購買行動と関与」 飽戸弘編著『消費行動の社会心理学』 福村出版 120-151.